



第32回 豊丘村駅伝大会

11月23日



第 706 号
発行人●豊丘村公民館 館長 原 国人
編集人●長野県下伊那郡 豊丘村公民館報 編集委員会
0265-35-9066
印刷所●龍共印刷株式会社

私たちの村
(11月1日現在 ※外国人を含む)
男 3,329人
女 3,370人
総人口 6,699人
世帯数 2,173戸

公民館で伝統工芸木目込み人形教室を始めてから二十年余になります。その間、全国展では総裁賞を受賞でき、教室の方々も総裁賞など数々の賞をいただくことができました。毎回熱心に、また楽しく作品を制作する中で、すべての方々が色彩感覚など技術的にも大

皆様に感謝
木目込み人形 曉恵会
唐澤 幸恵



いに上達されたと思います。この度、総本部の東京木目込み人形師範会が解散することにより、私たちの教室もこれで終了となります。今まで教室の皆様のご協力や公民館の方々のご支援で、私自身充実した素晴らしい時間を持てたことに心より感謝しております。



十一月二十三日（土）に第三十二回豊丘村駅伝大会を開催しました。今年は全五区間十二・三kmの一貫道路と県道伊那生田飯田線を周回するルートで、小学生六、中学生九、女子五、一般十三の合計三十三チームが参加し、大会を大いに盛り上げました。

一区の方々スタートしてから、私はウォーミングアップを始めました。寒い中でしたが、自分の持てる力を全て出し切るために入念に準備をしました。バスに乗り込み席に座った時から私は、少し緊張してきました。アンカーというプレッシャーの中、一番でゴールテープを切りたいという気持ちが増してきました。中継所に着き、仲間がタスキを繋いでくれるのを静かにまっていた。しばらくすると、自分達のチームがトップで中継所にやってきました。タスキを受けとり、仲間の思いを胸に走り出しました。五区は、ひたすら直線なので、己との戦いでした。向い風が強く、思うように足がまわりませんでした。ですがそんな時、道端で応援してくださる地元の方々の



声のおかげで、一歩先へ足をふみ出す事が出来ました。一位をキープしながら、ゴールへと向かいました。ゴールテープを切った時に私は、「嬉しい」という気持ち、「さみしい」という気持ち、がこみ上げてきました。一位でゴールし、二連覇を成し上げたので最高にうれしかったです。



高校三年生の私は、進学の為に四月には地元をはなれます。この大会に出るのも今回で最後になります。小学生の頃から出場していた大会に、出場することがなくなると考えると悲しいですが、最後を二連覇という最高の形で締めくくることがいい思い出です。今大会でお世話になった全ての方々、ありがとうございます。

段丘
アメリカのカントリー歌手ウィリー・ネルソンが、ソウル歌手レイ・チャールズと共演した時のことだ。盲目のレイの前に、ウィリーがジョークを言った。「彼とチェスをしたら、彼が勝った。次に勝負するときは部屋の前を歩けよう」。レイは大笑い。このジョークはレイが視覚障害者であることをネタにしている。しかし二人はこのあとすばらしいステージを見せ、強い心のつながりを示した。最近、「障害者」を「障がい者」と書き換えることが増えた。害という字に悪いイメージがあるためだが、それで何が変わるのか。障害とは健常者との間にある壁を指すのだろうか。その壁を取り払わず、書き換えだけで満足していないか。「障にも「害する」という意味があるが、これはそのままでもいいのか。村は平成十九年、それまで「部落」と言っていた集落単位を「自治会」と呼ぶようになった。役場に公文書公開請求したが経緯はわからなかった。職員によれば住民からの要望だったという。「部落」が一般的に被差別部落を指すようになり、それらと一緒にされたくない住民が思い始めたのだらう。もし「部落」に戻すという案が持ち上がった時、あなたは賛成するだろうか。▼わかりあおうとする努力をせず、呼び方だけ変えて問題を解決したと思いいこむ気持ち、わたしたちの中にあることは自覚しておきたい。
(壬生雅穂)

夜間ソフトボール大会閉幕

優勝

豊リーグ いくに会

丘リーグ ジャイアンツ

『令和最初』の
夜間ソフト

中芝
郷原広達

今年度も十五チームが参加しての夜間ソフトボール大会が五月上旬から九月中旬まで行われました。豊リーグに所属するいくに会は、十三勝一敗で一昨年以来二年ぶり、令和初の優勝を飾ることができました。

選手は、オフシーズンも体育館で練習をしたり、夜間ソフトと並行して下伊那

のリーグに参加したりするなど、各々技術を磨いてきました。そして迎えた今シーズン。平均年齢が若く消防団員の多い我がチームは、五月の操法練習と重なる時期を人が少ないながらもうまくやりくりし、順調に勝ち星を重ねました。また、七月にはチームの精神的支えとなっていた仲間を失ってしまいました。そこからはより強くチームが結束し、天国にいる仲間に優勝という最高の報告をすることができました。

来々、夜間ソフトボール



大会は記念すべき五十回目の節目を迎えます。昭和十九・二十年生まれの皆さんが結成し、半世紀続く長い歴史を持ついくに会。今後

蛇川下流域三六災害体験談(8)

蛇川下流域では、過去に思いもよらないところまで浸水していた

聞き手 原 章 (古畑)



北入から見た蛇川の流れ

この家では、三六災では浸水はありませんでしたが、今までに二回ほど浸水が起

この家は、ざっと見て、蛇川堤防からは百メートルくらいは離れていて、蛇川の流れや堤防からは幾分か高いところにある。このように蛇川から離れていて小高いところまで浸水したというところは、蛇川下流域に住む者からは見過ごせない重大なことだと思います。

この尊い言い伝えや家訓から、しっかりと学ばなければなりません。

(続く)

シリーズ「元気な高齢者」⑥2

穏健心で夫婦喧嘩無し
長寿健康の源



宮島昭三さん
九十一歳
下市場在住

昭和三年に現在の駒ヶ根市赤穂で、六人きょうだい男一女各三人の総領として生まれました。両親は酒屋を営んでいたが、戦争の余波を受けて倒産してしまい、昭和十四年に母親の在所の伝を頼って伴野原に移り、山林を借用し両親が開墾、稲作、果樹栽培を始めた。

小学校四年生まで駒ヶ根

人生は大きく変わっていったらうと今でも思うことがある。

父親の知り合いから果樹苗を手し梨、りんご、桃、柿など、手広く果樹業に注力した。暫くして手暇暇の掛かるリンゴは辞め、主に二〇世紀梨と柿に専念するようになった。本来物事に「拘り」をもつ昭三さんは、梨や柿作りでも拘り力を発揮し、出来映えは皆の見本となるほどの品質を誇り、農協の技術員が教を請うほどであった。しかし忙しさの割には、収入的に恵まれなかったため、近くの天恵製菓に勤め進んで夜勤を希望、昼間は農業に従事するという兼業であった。若いうちに自動車運転免許を取り、当時はまだそれほど普及していなかった軽自動車を購入、出荷用の果実を運んだ。何かにつけて村内では機械化の先駆者で、柿の皮むき機や粉出機を率先して導入するなど仕事の効率化を図った。

三十三年に知人の世話に

より喬木出身で五歳下の豊子さんと結婚した。豊子さんは子供が生まれ暫くは昭三さんの仕事を手伝っていたが、姑さんに子供をみてもらい、家計の足しとすべく喬木の瓦製造会社へ入社した。通勤手段のため、車に乗る女性が多くなった。旅行先が折々テレビに出るのを見て当時の情景を懐かしんでいる。

夫婦とも温和な性格で、喧嘩はほとんどしたことがないという。二人して良い人生だったとしみじみ語られたのが印象的であった。ただ弟と妹がそれぞれ八十代になって亡くなったのが悲しいことだ。本宅には長男家族三人が住み、二人は隣に建てた別棟で暮らす。週二回はデイサービスに通い、好天の日には朝夕で一時間ほど散歩する。ときどき届く孫が描いた似顔絵に自然と笑みを浮かべながら穏やかに暮らしている。

お気に入りの一句

いつからか女房上役我下男

水したのは、この地域で三六災をはるかに上回る豪雨が降ったためとか、上流から土石流が襲ったためとか、流れが急に変わるような事態が生じたとか、いろいろ考えられますが、今はそのことについて知るすべがありません。言い伝えの浸水は、かなり前に起こったことなのですが、時期についてもわかりません。

代表選手酒井浩文氏は「中高生が主体となり、自主練を重ねてきた。いい大会でいい内容、いい結果を残せました」と大会の感想を答えてくださった。結果は一時間十五分三秒で第八位、第五区(三km)では豊丘中学校に通う、三年生の坂巻譲太さんが九分五十三秒で区間賞を受賞した。区間賞

生活の利便性を求めて六十年に現在地の下市場へ移住して来た。豊子さんは会社勤めの傍ら、頻りに伴野原まで通い果樹業を手伝った。体力的に厳しさを感じて来た昭三さんは、農業を七十五歳で辞め、果樹園は千葉から来て果樹業を希望していた人に譲渡した。

農業を辞めシルバー人材センターの仕事をしていたが、七十九歳の時に老人大学へ入学した。最長老であったが、ハーモニカの会に入り、持ち前の拘り精神で練習し二年間の学業後も続け、時には施設等へ慰問に行ったりしている。また

て、身体を動かすことの楽しさを体験する」という大会概要にふさわしい笑顔があふれる駅伝・ロードレース大会は幕を閉じた。

文責 津田 孝平

みなみ信州駅伝
豊丘チーム
初の区間賞

十二月一日晴天の下、松尾の飯田市総合運動場にて『みなみ信州駅伝・ロードレース大会』が開催された。今回で四回目となる本大会は駅伝チーム九十チーム、ロードレース参加者二百八十九名と大変な賑わいをみせた。第一部駅伝には豊丘村選抜チームが参加した。チーム代表の元オリンピック日本





北市場三

山本義彦

早朝、毎日運動を兼ねて自転車散歩を始めて、かれこれ二十年になる。

ちょうどそのコース上に

道の駅とよおかマルシェが立地した。当初駐車場をぐるりと回り一夜を明かした車のナンバーを見るのが楽しみにになった。北は北海道から南は九州と、さまざまな都道府県のナンバーにびつくり、松本ナンバーが駐車していると、何故かがつかり。ところが、昨年はさほどではなかったが、今年の春頃からキャンピングカーが多くなった。米国製の豪華なものから軽ワゴンを改造したり軽トラックに箱を載せたようなものまでさまざまで、一見お粗末に見えるそんな車で札幌や鹿児島から来ているのはまたびっくり。週末はほぼ毎朝四、五台は駐車している。夏休

みに入ると子供づれも目立つ。たまに早起きの人が車外に出て登山用の携帯コンロやカセットコンロで朝食準備をしたり、タバコをふかしている人を捉まえて声を掛けるとはぼ気持ちよく挨拶してくれる。ナンバーで判るので「遠方からきたね、これからどちらへ」程度の会話を交わして別れるのだが、早起きの人はたいてい一人旅が多い。

夜明けが遅くなり私も明るくなつてから出発するので、朝の空気を堪能している人が多くなり、話をするにはチャンスなのだが、私の時間の関係



や、またあまり邪魔をしてはいけないと思い挨拶程度で立ち去るので少し残念ではある。車の中を見てもraitたいが、他人の部屋をのぞくに等しいので躊躇してしまう。二、三日滞在する人がいれば別だが、まさに一期一会である。

関東大震災以来キャンピングカーの登録が多くなり特に軽の改造車が多いと聞く。

「税について」

豊丘中学校三年二組
田中 蘭

「税について」の話を聞いて思った事は、二つあります。一つ目は税金の使い道です。私は今まで税金がどのように使われているのかわかりませんでした。でも税金が無い世の中のビデオを見て、例えば、道路の整備や警察、学校の教育費などに使われている事が分かりました。もし税金が無かったら、周りの公共施設がボロボロになつていたり火事になつた時無料で消防車が来てくれない。そうすると私達の生活はとても不便になります。そして年金にも使われているので高齢者も自分で働いて金を稼がなくてはなりません。なので私は税金は生活に無くてはならない必要不可欠なものだと思います。

二つ目は福祉の充実です。税金は高齢者の生活に年金として使われており、自分で会社に勤めてお金を貯める事はできないので主に年金で生活しています。ですが病気になるったり、看護が必要になつてくると病院や福祉施設に通わなくてはなりません。そうすると年金だけでは足りなくなる部分も出てきます。それでは老後やりたい事ができなかったりして人生を楽しむ事ができません。なので私はもう少し税金を増やしてより充実した生活、福祉にできれば良いのではないかと思います。若い世代の人は大変かもしれないけど、しょうがない事なので国民みんなで負担すれば良いと思います。また、高齢者の方も昔は一生懸命働いて高齢者を支えてきました。さらにヨーロッパの方では税金が四十五パーセントもかかっている国がいくつもありました。私も最初この税には驚

きましたが、その分日本よりもずっと福祉や生活が充実しており、病院に払うお金や教育費はほぼ無料だそうです。なので私は高齢者の方のためにもっと税を増やしても良いと思いました。このように、税についてたくさんの方が知れました。そして税金の在り方についても自分なりに考える事ができて良かったと思います。これからの生活の中でも税金に関心を持ち続けたいと思います。

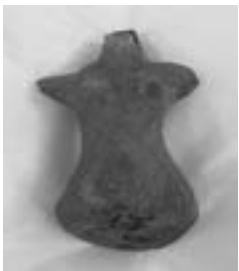
「税についての作文」
豊丘村租税教育推進協議会長賞



お知らせ

九月末で、大倉淳司職務代理が退任され、十月一日付けで昼神賢児委員を任命いたしました。教育委員会の新しい体制は次のとおりです。

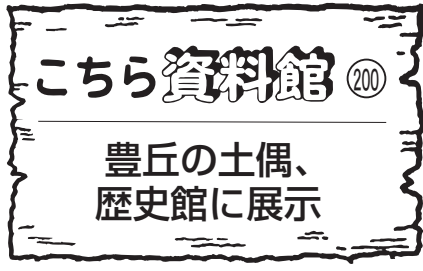
教育長	壬生 英文
同職務代理	唐澤 武彦
委員	菅沼 麻里
同	木下志保里
同	昼神 賢児



写真②



写真①



千曲市の県立歴史館では、先月紹介した「国宝土偶展」に引き続き、長野・山梨両県から出土した土偶を展示する「中部高地の土偶―暮らしに寄り添う小さな女神―」展を開催中です。そこには、我が豊丘からも二体の土偶が展示されています。

写真①は伴野原遺跡から出土した土偶で、縄文中期中葉(五千〜五千三百年前)のものと考えられています。その当時の伊那谷土偶の特

徴である腰の部分が大きく張り出した出尻型土偶です。腰から下が欠けていますが、他の遺跡からも似た土偶が発掘されていて、大きく張り出したお尻の下に太い二本の足が付いていたと考えられます。また大きく広げた腕の先が少し内側に曲がついていて何かを包み込む格好にも見えます。

写真②は掌にすっぽり収まるくらい小さなものです

この展覧会は来年二月二日まで開かれています。
(資料館主任 唐澤武彦)



『豊丘村民話集』より

亀山稲荷大明神
縁起(一)

柿外土 丸山鑑一

今から約一五六年前、文政五年十一月上旬、麦蒔き

かどうかは明らかではないが、麦蒔きはそつちのけ、大事に掘り出してあらためたが、宝物も小判一枚もなかったとのこと。

この甕、捨てても惜しいし灰入れにでもするかと、風呂場近くの軒下に据えて幾年か使っていたが、口は狭いし、入れるには良いが出す時には具合が悪いでやめちまえたというので、裏の納屋の二階へ持ち上げて片隅へ押し込んだ。

このまま時は流れて絹屋は三代目になっていた。苦

労知らずに育った四郎衛門は、当地で買い集めた絹糸を京都に運び多額の金子が手に入ったのでついに誘惑に負けて祇園丸山へと足を踏み入れ、使い込んだ。やがて次の仕入れにも困るようになり、借金が多くなったために田畑を売ったが、ついに自身は中風になり、寝たきりになってしまった。

その子の徳兵衛は十四歳

になっていた。これではならじとお家再興を決意し、残った田地、田畑は親戚の河野村の片桐長九郎方へ借金のかたに入れて、江戸へ稼ぎに出た。艱難辛苦の後、相当の金を貯めて故郷へ帰り、親戚の片桐家へ参り、留守中のお礼と帰郷の挨拶をし、さてお約束通りの金を持参しましたから田畑をお返しくださいと申しますと「土地の値段も上がったし全部を返すわけにはゆかぬ」という。いや、それでは約束が違うと押し問答したが、結局だめで一町歩余りしか返してもらえなかった。

当時、片桐長九郎は阿島

知久家の御用人で、肩で風を切ってお供を連れて、今日向通りの道を馬上豊かに阿島様へ通つていたという。いかに出世したとはいえ、親戚との約束を破るのはあまりに理不尽と、これに腹を立てた徳兵衛は、それでは侍になつてきてみせると再び江戸に出た。当時、江戸には御家人株といつて下級武士のつづれ株が金で買えたそうで、これで二本差しになって帰る心算だったらしい。しかしこのとき幕府は倒れ、時代は明治新政府に移り、廃刀令、断髪令が出た。機を見るに敏な徳兵衛は「これからは武士の時代ではなく実力の時代だ。こんなことに金を捨て

るのはもったいない」と、さっさと再び故郷へ帰つて来た。(次号へつづく)

(豊丘村民話集・第巻輯(昭和五十二年)より)

文責 壬生雅穂



～シリーズ～ 豊丘の自然

No.192

ヒメヤママユ
(ヤママユガ科)



2019.12.5 11:06

今月は十二月五日、午前十一時六分に撮影したヒメヤママユを紹介しながら、気になることを二つ書く。

一つ目は「桜を見る会」のゴタゴタ。二つ目は「対応」。「対応」のちがいが。辞典で調べてみると、決定的なちがいは「適応」には「生物体が、生存のために環境に順じて生理

(山田 拓)



令和最初を飾る
文化祭作品展
11 / 17~24
ゆめあるて全館に
力作がずらり!



歌は世につれ～ (三話)

心残り「志賀～草津・万座ツアースキー」

上佐原 小池 光好

この映画のあらすじはというと、主人公が勤める総合商社が、万座スキー場でスキー用具の発表会をしようとしたところ、いやがらせによりウェアが届かないというトラブルが発生する。その頃同じウェアを着て志賀高原でスキーを楽しんでいた主人公達は一報を受け、発表会まで二時間半しかない中、万座スキー場までの危険な山



志賀 熊の湯スキー場にて

今から三十年ほど前、このスキー場でもよく流れていた歌が、ユージン（松任谷由実）の「サーフ天国、スキー天国」・「恋人がサンタクロース」・「BRITZ ARD」である。スキーブームを起こすことになったと言われる映画「私をスキーに連れてって」の主題歌と挿入歌である。主演は原田知世。最近NHKの朝ドラで母親役を好演していた。

越えスキーを途中からサーチライトを点けながら強行する（志賀草津道路（国道二九二号）は冬期閉鎖）。なんとが無事到着し、発表会は成功裏で幕を閉じる。志賀草津・万座ツアースキーは、天候が安定する時期の昼間、ベテランスキーヤーやガイドの下で行われていた。ただし、日没夜間ほとんどないことで、映画の中だけの話である。私にもチャンスがあった。勤務先のスキークラブが定宿としていたホテルの社長がガイドを買って出してくれ、「志賀草津ツアースキー」が四月上旬に計画された。しかし、年度の初めのため私は都合がつかず断念した。毎年計画してくるだろうと思っ

【原稿募集】
歌にまつわる思い出やエピソードなどを、写真を添えてお寄せください。字数は問いません。投稿お待ちしております。

花ハツ手席もり石の行き止まり
茶が咲いて夫居さうな日和かな
新松子祓詞の心み渡る
秋澄むや五感研ぎ澄む今朝の村
大雨の去りて夜空に星並ぶ
参道の日に肩よせて霜わらび
香をはなつ落果林檎の穴深し
冬山の彫り深くなるばかりなり
落葉掃く来し方の失態を掃く
晒されし山査子の実は紅のジャム
墨蹟の余白の冴ゆる書道展
駒ヶ岳の風真向かひに大根千す
女友達時に黙して葛湯吹く
天竜川の霧中の声や登校子
ひとときの命をつなぐ夕紅葉
鶯はいま冬ざるる洲を輪に收む

磯部セツ子
田中 静
片桐 洋子
森田 恵子
三島 保子
三島 里子
木下 眞水
松岡 照子
宮下 公
宮下 純子
林 恵美子
丸山 時子
池田 美和
矢島 千勢子
河手 洋子
北原 昭子

俳句 短歌

〈とよおか短歌会〉

秋深み友の作りし大根をふるふきにして老姉に届けり
福澤貴美恵

台風がもたらす豪雨や暴風は温暖化せる地球の怒りか
筒井 恵子

「はつらつ」へ演劇見んと集い来ぬ程良き暖房の大会議室
大倉 知江

台風の過ぎし小布施の街のどか岩松院に一茶の句碑あり
松下 泰見

お年玉の切手集めを趣味として四十四年の変遷思う
壬生 千春

ラベンダーの匂袋を枕辺に置けば寝付きと目覚めの良薬
大原真由美

友人が免許返納したと聞きまだ頑張ると夫八十六歳
松尾ヒサコ

高齢をささえられたる日々思う家族や友らの絆の深さ
毛涯百合子

嶺険し御嶽山望む高原の開田の木曾馬ひとみ穏しも
福澤 亀人

〈豊丘村川柳クラブ豊柳会〉

▼課題「代」 久保ひろし 選

代議士は叩けばホコリ出る種族 桃沢 健介

電気代見て鳥肌が立つ猛暑 安田 喜子

忘年会プンブン臭う代行車 市沢 照子

軸吟：代替わり自由化の波足もとに

▼課題「喜」 互 選

七十年喜怒哀楽の走馬燈 林 もも子

勝利した喜び明日の糧となる 西元 峯子

▼自由吟 桃沢健介 選

敬老会達者な人が勢揃い 久保ひろし

グレタさん訴え直に的中し 山本 義彦

札幌へ五輪都知事の不満顔 原 美風

軸吟：千曲川暴れ五木の歌哀し

川柳